

# 平成 29 年度看護部活動報告

29 年度は 2025 年問題を意識し『地域包括ケアを考えた看護をする一病棟、外来、在宅、地域の連携を考えた看護サービスを提供する一』を看護目標に掲げました。地域との連携強化を図り、介護職の再就業支援も実施しました。

## 教育活動

ラダー制度を導入し、多くのスタッフがラダー申請し、いずれかのレベルの認定を受け、クリニカルラダーの修了者も増えてきています。各レベルの研修を見直し、内容の充実を図りました。管理者も各自のキャリア開発の方向性を視野に、次年度導入予定のマネージメントラダー申請のための準備を進めています。

### 中途採用者研修

各所属部署で研修計画を立案・実施。まずは環境に慣れてもらうことに主眼を置いています。今年度の中途採用者 5 名で交流会を行い、情報交換をしました。

### 介護職研修

各部署での問題点を抽出し、その解決策を話し合いました。働きやすい環境にするには… 看護師とのよりよい連携のためには… など活発な意見交換ができました。

## 第 6 回心に残るとっておきのはなし

シンポジスト 6 名の方に看護体験をお話しいただきました。

♥看護助手になった私に丁寧に指導してくれた先輩。患者さんに声をかける大切さ、患者さんに寄り添う大切さを教えてくれました。助手の仕事が向いていると言ってくれた先輩。先輩に教えてもらったことを次の人に伝えていきたい！先輩に感謝しています。

♥卵巣がんの終末期の O さん、声をかけてもほとんど返事はなく、看護師の足も遠のいていました。新人だった私はまず声をかけ、目線をあわせ、手を触れながら O さんが話してくれるのをじっと待ちました。O さんが亡くなった後、ご主人から「じっと手を握りそばにいてくれたことが安らぎを与えてくれ、穏やかにすごす事ができました。」と感謝の手紙。言葉を交わさない看護があることを実感しました。

## 看護研究

### 院内看護研究 / 7 題

- ストーマ装着選択フローチャートの作成
- 回復期リハビリテーション病棟における転棟前訪問の導入に向けて
- エンゼルケアに関する意識調査
- 外来における高齢者への在宅支援に向けて
- 手術室における地震対策
- 手指消毒の習慣化に向けての取り組み
- 療養病棟における身体抑制に対する職員の意識調査

### 院外看護研究発表

- 回復期リハビリテーション病棟における退院支援目標シートの活用

日本看護学会慢性期

## 学生受け入れ

### 看護実習

- ♥国際医療福祉大学
- ♥国際医療福祉大学

塩谷看護専門学校

### 職場体験

- ♪地域の中学校
- ♪地域の高校
- ♪ふれあい看護体験

## 業務改善

医療安全についての業務改善を行い、各部署から13題の発表がありました。それぞれの取り組みを共有することができました。

## 地域活動

### 手洗い教室

矢板市小学校 8校  
さくら市小学校 1校  
塩谷町小学校 3校

574名

### 矢板市内保育園

幼稚園 8園

296名

### いきいき体操教室

矢板市で実施しているいきいき体操教室で脳卒中予防やインフルエンザ予防などの健康教室を実施しました。多くの方に参加していただきました。

### 施設における感染症対策

矢板市内の2施設の介護職の方に向けて感染症の正しい対応について研修会を実施しました。病院と地域の連携強化を図っています。



## 災害拠点病院

29年度、災害拠点病院になりました。トリアージ訓練や大規模災害訓練など看護部スタッフもDMATの一員として活動しています。DMATで活動している看護師はICLS(突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生)を受講しています。院内のICLS修了者は72名になりました。



## 自治会

平成29年度の看護部自治会は、春の親睦会として新人歓迎会 秋の親睦会としてバーベキューを行いました。自治会の役員を中心に多くの参加者が集まり、楽しい時間を過ごすことができました。クリスマスには、自治会から看護部全員にプレゼントが届きました。

自治会の活動がチームワークの源です♥



## 看護部長から一言

それぞれが目標を持って精一杯頑張りました。研修を企画している教育委員会も時代を先取りした教育計画を工夫し、成長し続ける看護部に誇りを持っています。



平成29年度の看護部の人員構成は

看護師・保健師 194名  
准看護師 7名  
介護福祉士・介護職 25名  
看護補助者 28名  
社会福祉士 8名  
合計 262名  
看護師の離職率は6.7%

